

機械加工工場を始めました

熊倉雄太さん（熊倉精機・埼玉県川越市）





「もともと、モトクロスも機械が好きで始めたんです。修理や改造も自分でやっていましたから、今、大変ですけど、機械仕事ができるのがうれしい」と話す熊倉雄太さん



自宅から工場まで車で40分。朝9時から夜10時、11時頃まで働くことが多い。
熊倉精機 〒350-0807 埼玉県川越市吉田101-5 TEL・FAX 049-234-3073

「車いすの青年・熊倉雄太さんが、機械加工の工場を開設して、一人で奮闘しています。ぜひ、『働く広場』で紹介してください」というメールが、熊倉さんの学んだ東京障害者職業能力開発校の先生から、当編集部に届いた。

（働く広場）編集部では、情報の提供、投稿、提言等を募集しております。）

こうして熊倉さんの取材が始まった。

熊倉雄太さん（三五歳）は、埼玉県川越市で生まれ育った。学校を卒業し、家業のクリーニング店を手伝っていた一九九五年、二六歳の時、趣味のモトクロスの練習中に転倒、脊髄を損傷してしまった。二年に及びりハビリ生活を送ったが、胸から下に障害が残り、車いすでの生活となった。

社会復帰に向けて熊倉さんは、子供の頃から好きだった機械いじりと、ものづくりにかわる仕事をしたと考え、九七年、東京障害者職業能力開発校の工業モデル科へ入学し、一年間、機械加工に関する知識・技能を学んだ。

卒業後、川越市にある会社に就職し、NC工作機械（数値制御により製品を加工する機械）のプログラマーとして三年半勤務した。独立を考えていた熊倉さんは、その後、マシンニングセンタ（主として回転工具を使用し、自動工具交換装置を備えた数値制御工作機）に習熟するため知人の会社に移り、創業に向けて腕をみがいた。

二〇〇二年十二月、友人、知人、家族の協力と支援を受け、念願の「熊倉精機」を創立した。スタートして一年九カ月となる現在、オートバイ関連部品の試作品、金型の設計・製作・納品に一人で奮闘している。

「いそがしい毎日だが、今は充実して、楽しい」と語る熊倉さんだ。



「温厚な人柄の熊倉さんは、NCに関する加工技術の習得という明確な目的意識をもって入校し、受講意欲、訓練への取り組みが積極的で、探求心にあふれていました。障害者が、日常生活で自立していくだけでも困難ななかで、ハンディを克服し、工場を経営する姿は、ほかの障害者の皆さんに勇気を与えてくれます。熊倉さんの工場の発展を期待したい」という東京障害者職業能力開発校の先生たちからのメッセージ



「本当はコンピューターは好きじゃないです。でも、やらなくちゃ」と夜遅くまで頑張る



鉄板のスロープ



マシンの奥の点検は、ちょっと大変



仕事は、何でも一人でこなす



クリーニング店の休日に訪れたおとうさんの手作りの昼食を楽しむ熊倉さん



おとうさんの友人で、元機械工の稲辺俊一さんも、ボランティアで工場内の整備等を手伝う



週1回、掃除と昼食づくりに訪れる熊倉さんのおとうさん



工場を訪れ、熊倉さんの仕事ぶりを見学し、近況を聞く東京障害者職業能力開発校の島根伸明就職・生活指導係長（右）と前職の石川武美先生（現東京都産業労働局）



情報系、電気電子系、ビジネス系、医療福祉事務系、グラフィックメディア系、ものづくり系など、多種の職業訓練科目がある



熊倉さんが学んだ東京障害者職業能力開発校で、意欲的に訓練に励む後輩たち（機械・図面系）



東京障害者職業能力開発校
〒187-0035 東京都小平市小川西町2-34-1 TEL 042-341-1411 FAX 042-341-1451